

学位（博士）論文要旨

看護学専攻 理論看護学分野 基礎看護学教育研究領域	学籍番号 0533004 氏名 毛利聖子
論文題目	看護理論の修得過程における共通構造の可視化
Keywords : 看護過程、認識の変化、看護実践方法論、修得過程、看護理論と実践のつながり	
<p>本研究は、実践の場で看護理論（看護実践方法論）を適用しようとしても使いこなせなかった筆者が、看護理論に導かれながら看護を展開していく修得過程にどのような論理がひそんでいるかを、自己の実践を通して分析し、理論から学び始めた学生の実習場面の分析と比較して、看護理論の修得過程における共通構造を探り、理論を適用するための有用な知見を得ることを目的とする。</p> <p>研究対象は、理論を学び直し看護を展開した自己の看護実践における認識、および、看護理論を体系的カリキュラムのもとに学ぶ学生の臨地実習における認識とした。研究方法は、受け持ち患者との関わりを再構成して資料とし、その中から患者によい変化が現れ、かつ看護者（学生）の認識も変化した場面を選んで研究素材とした。分析方法は、まず研究素材を精読し、看護者（学生）の認識の変化の性質を浮き彫りにするために、プロセスレコードに「後で振り返って想起したそのときの判断や像」「看護者の認識の変化の判断根拠」の項目を持つ分析フォーマットを作成し、内容を書き入れた後「看護者（学生）の頭の働かせ方の事実」を取り出し、その内容の抽象度を上げて、「看護者（学生）の認識の変化の性質」を抽出した。次に、看護者—患者のかかわりの場面全体を通し、患者の自力で解決できない問題がどのように解決されていたか、看護実践方法論に照らして吟味した。さらに、場面全体にどのような論理が潜んでいるかを抽出し、看護理論とのつながりを吟味した。そして、看護者（学生）の認識の変化の性質から「看護理論の修得過程のポイント」を取り出した。最後に、看護者と学生の看護理論の修得過程のポイントを一覧にし、その共通性を吟味し、共通構造を抽出した。その結果、「看護理論の修得過程の共通構造」として以下の知見を抽出し得た。</p> <p>①不調和なところ・気になるところが見える。②看護者の認識が作り替わる③患者像が膨らむ④立場の変換ができる。感情が揺さぶられ、相互浸透が進む⑤方向性が見える（定まる）、見通しが立つ⑥関わり続けていくことができる⑦目標像が描ける</p> <p>以上より、看護理論を自分のものとしていくプロセスの中にこの7項目があることがわかった。この7項目は、看護理論の目的論・対象論・方法論を内包したものであり、常に個人の看護者の頭の中でつながりあって動いていることがわかる。また、看護理論の学習段階から適用段階の過程における階段をのぼる「論理」であり、この7項目を様々な対象に適用していくことで、看護理論の修得を促進させ、意識的適用のはたらきをより進めるものにつながると考えられた。</p>	

1,200字以内、A4版

指導教員氏名（自署）：

毛利 聖子

平成 20 年 2 月 12 日

宮崎県立看護大学大学院
 研究科長 薄井 坦子 様

学位論文 (修士・**博士**) 審査委員
 主査 氏名 (自署) 薄井 坦子
 副査 氏名 (自署) 遠藤 恵美子
 副査 氏名 (自署) 大沼 裕子
 副査 氏名 (自署) 山本 利江

学位論文審査及び最終試験の結果報告書

このたび、審査委員会として、学位論文 (修士・**博士**) の審査及び最終試験を終了したので、その結果について下記のとおり報告します。

記

学生氏名	毛利 聖子		学籍番号	0533004	
看護学専攻	理論看護学		指導教授氏名	薄井 坦子	
成績 評価	学位 論文	合格		最終 試験	合格
論文 題目	看護理論の修得過程における共通構造の可視化				
審査 要旨	<p>予備審査において、理論の修得過程に不可欠な論理を、自己の実践と実習指導を行なった学生の実践を分析することを通して追究した点が評価されたが、研究方法論に一貫性がなく迷走している点が指摘された。</p> <p>本論文審査では、分析場面における理論の適用過程を事実に論理的に述べつつ、理論の学習過程から修得過程に至る対象—認識—表現の過程的構造を抽出し、その共通構造として 7 項目をとりだし、看護者個々の頭脳の中につながりあって動いていることを示した。これは看護理論の再措定のプロセスを可視化したことであり、今後の検証が期待される。</p> <p>以上から、本論文は、理論看護学上価値ある研究として認められる。</p>				